

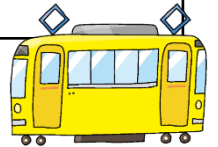
# 道徳通信

大田区立馬込第三小学校  
東 山 良 彦  
道 徳 部  
令和4年3月23日  
第 7 号

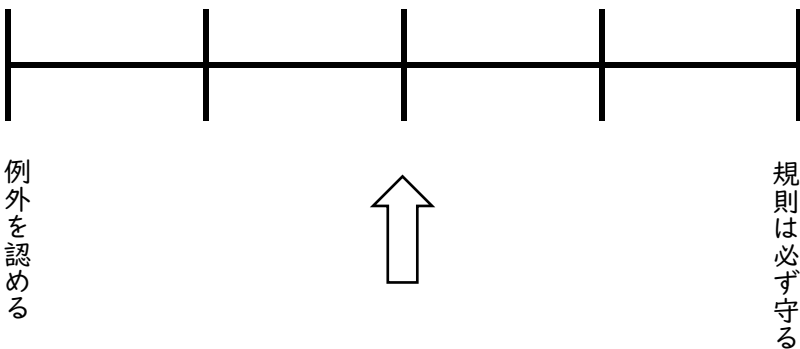
あっという間に3月も終わりに近づいて、令和3年度の終わりが目の前です。「道徳通信」では、学校の道徳教育のことや道徳の授業のことについて保護者の皆様と一緒に考えたく、発信しました。今年度の最終号は、新聞記事から考えていきたいと思います。数年前の記事ですが、このようなことが、報道されました。



JR 東日本の東北新幹線が大学入試に向かう途中で列車を乗り間違えた受験生のため、本来は止まらない宇都宮駅で停車したことが分かりました。この「温情停車」で受験生は試験開始に間に合いましたが、JRは「基本的に新幹線をとめることはできない。今回は特別措置。事前に停車駅を調べて乗ってほしい」と訴えている。(2003.2.5 報知新聞)



私たちが生活する社会には、たくさんの法律やきまりがあります。この記事をご覧になり、どのようなことを思いますか。



みなさんは、この矢印をどこの線上に動かしますか。例外を認めて停車させた新幹線の対応を「よかった。こういうことがあってもよいと思う。困っている人がいたら、例外を認めることもあるだろう。」と思うこともあるでしょう。一方、「いや。規則を守ることは大切だ。毎回こういうことができる訳でもない。受験会場に時間を守って到着できないのであれば不合格になってしまうことは致し方ない。」など、いろいろな考えがあると思います。

さて、この記事を読んだあとに、次の教材を御覧ください。中学校の授業で扱われることの多い話です。

## 二通の手紙 あらすじ 出典「私たちの道徳」中学校(文部科学省)

動物園の入園係をしていた元さん。勤勉な働きぶりも評価され、定年後も動物園で臨時職員として働くことになっていた。ある日、入園終了時刻が過ぎてから幼い姉弟がやってきた。入園時刻を過ぎていること、さらに規則では保護者と同伴できないと入園できないことになっているが、元さんは、事情を察して二人を入園させてしまう。ところが、閉園時刻を過ぎても姉弟は戻ってこない。園内の職員総出で二人の捜索が始まった。二人は遊んでいるところを無事に発見され、事なきを得た。数日後、姉弟の母親から謝罪と非常に感謝している旨の手紙が届く。一方、上司からは今回の件を受けて懲戒処分(停職)の文書を受け取る。元さんは、二通の手紙を机の上に並べて置いた。そしてそれを見比べなら「子供たちに何事もなくよかった。私の無責任な判断で、万が一事故にでもなっていたらと思うと・・・この年になって初めて考えさせられることばかりです。この二通の手紙のおかげです。また新たな出発ができそうです。本当にお世話になりました。」と語り、晴れ晴れとした顔で身の回りを片付け始めた。元さんは、自ら職を辞し、職場を去って行った。


「二通の手紙」を読み、どのようなことを感じたり、考えたりしましたか。

裏面へ

この教材は、遵法精神、公德心について考える教材です。規則を破ってまで姉弟を入園させた元さんについて、どのように考えますか。そして、懲戒処分(停職)になってしまったことについて、気の毒な思いもします。ただ、きまりを守るということは、単に「きまりだから守りなさい。」ということではなく、何のためのきまりなのかということを考えるきっかけになります。安全や安心のためや社会生活の秩序を保つためにもきまりは必要です。

私たちの生活の中でも、規則やきまり、マナーを守ることは大切だと分かっているにもかかわらず様々な理由があり、例外を認める場合もあるでしょう。例えば、子供たちが鬼ごっこで遊んでいるときに、走るのが苦手な子をタッチしたけれど、「いいよ。」と言ってまた逃げられるようにする場合もあるかもしれません。私たち大人の場合も、並んでいたときに、とても急いでいる人の姿を見て、「どうぞ」と順番を譲ってあげる場合もあるかもしれません。例外の中にある優しさを否定することは、社会で生活する一員として、少し寂しい気もします。

さて、「二通の手紙」の話に戻ります。元さんは、勤勉で真面目な仕事ぶりです。熱心だからこそ、幼い姉弟の願いを叶えてあげたかったのかもしれません。しかし、規則を破ったことに対して、懲戒処分を受けてしまいました。皆さんは、どのようなことを思いますか。

- 
- ・そんな、ひどい。
  - ・訓告処分にして、定年後も働かせてあげてほしい。
  - ・優しい人を責めるようなことはしてほしくない。
  - ・二人のお母さんは感謝しているのだから、許してあげてほしい。

- ・大事にはならなかったけれど何かあったら大変だった。
- ・きまりは大切だから守らないといけない。
- ・同じようなことがあったら、また入れてあげる訳にはいかない。特別扱いはよくない。

元さんの行動を認める思いもあるでしょう。一方で、規則を守ることの大切さを考える場合もあるでしょう。ある中学生の実際の考えを紹介します。

元さんは、定年後の臨時職員の話がなくなり、退職処分になってしまった。姉弟は、動物園の職員の人やお母さんなどに怒られてしまっただろう。姉弟のお母さんは、周りの人から『子供だけで動物園に来させるなんて』と、責められてしまったかもしれない。例外を認めて入園させてしまったことで、幸せになった人は誰もいないのではないのだろうか。

一見、冷たいように見える規則には、全ての人々が安心して生活できるようにするための大きな意味が込められているのかもしれませんが。窮屈であったり、融通が利かなくて困ったりすることもあるかもしれません。一方で、規則やきまりの中にも温かさや思いやりもあるのかもしれませんが。そう思うと、みんなが幸せになるための思いが見えてくるのではないのでしょうか。「時間を守る」「順番を守る」「安全な登下校」「使った物は片付ける」「公共の施設での過ごし方」などなど、きまりの中に隠された温かさや思いやりにも目を向けてみると、違った視点から考えることができるかもしれません。

最後に、新聞記事を読んでいて、印象に残った記事を紹介합니다。朝日新聞の新聞記事です。

「パラバブル」。この数年、関係者間でささやかれた言葉だ。東京パラ開催が2013年に決まって以降、社会の関心や企業の支援が急に高まった。光が当たりにくい状況が長かっただけに、露出度が増えた近年の状態は関係者に「パラバブル」と映った。

東京パラがコロナで1年延期されて、北京を含む2大会が半年のうちに集中してバブルの盛り上がりが強まった分、その後への危機感は強い。突然はじけるといふより、静かにしぼんでいく。今後、どう競技の魅力を伝えていくのか、しっかりと考えたい。(2022.3.17 朝日新聞)

私たちは、様々な人との関わりの中で生活をしています。子供たちも立派な社会の一員です。全ての人たちが幸せで充実した生活が過ごせるような社会であってほしいと思いました。「道徳通信」1年間をかけて、読んでいただきありがとうございました。

